

平成27年度 中国地方建設技術開発交流会 質問及び回答

課題名：『涼畳（すずだたみ）』石張風保水性舗装

発表者：大林道路（株）本店 エンジニアリング部 菅野 善次郎

《質問》

積雪寒冷地での適用は出来ますか。

《回答》

「凍結」についてのご質問かと思えます。夏期には暑くなるが、冬期に雪が降る地域でも適用事例があり、現在のところ不具合は発生しておりません。

《質問》

施工面積について、何㎡以上ないといけない等あるのか。（施工費の上で）

《回答》

ショットブラストを必要とするため、400㎡以下の施工面積については、割高となります。

《質問》

まだまだ保水性舗装が普及していませんが、コスト面の問題が大きいのでしょうか。また、全体的に白色系の舗装ですが、路面表示の見え方に問題はないのですか。

《回答》

熱帯夜が問題となっている都市部においては、適用事例が多くありますが、自然環境が良好な地域では、機能の特性とコスト面を勘案し普及しづらくなっているものと考えています。

ショットブラストをすることで「粗骨材」本来の色が出ますので、路面標示との区別がつき現在のところ特に大きな問題とはなっていません。

ただし、一部では、セメントミルクに顔料を加えたり、路面標示を黄色等に変更した事例もございます。